

## 職員リレーエッセイ

## ある日の夏の思い出

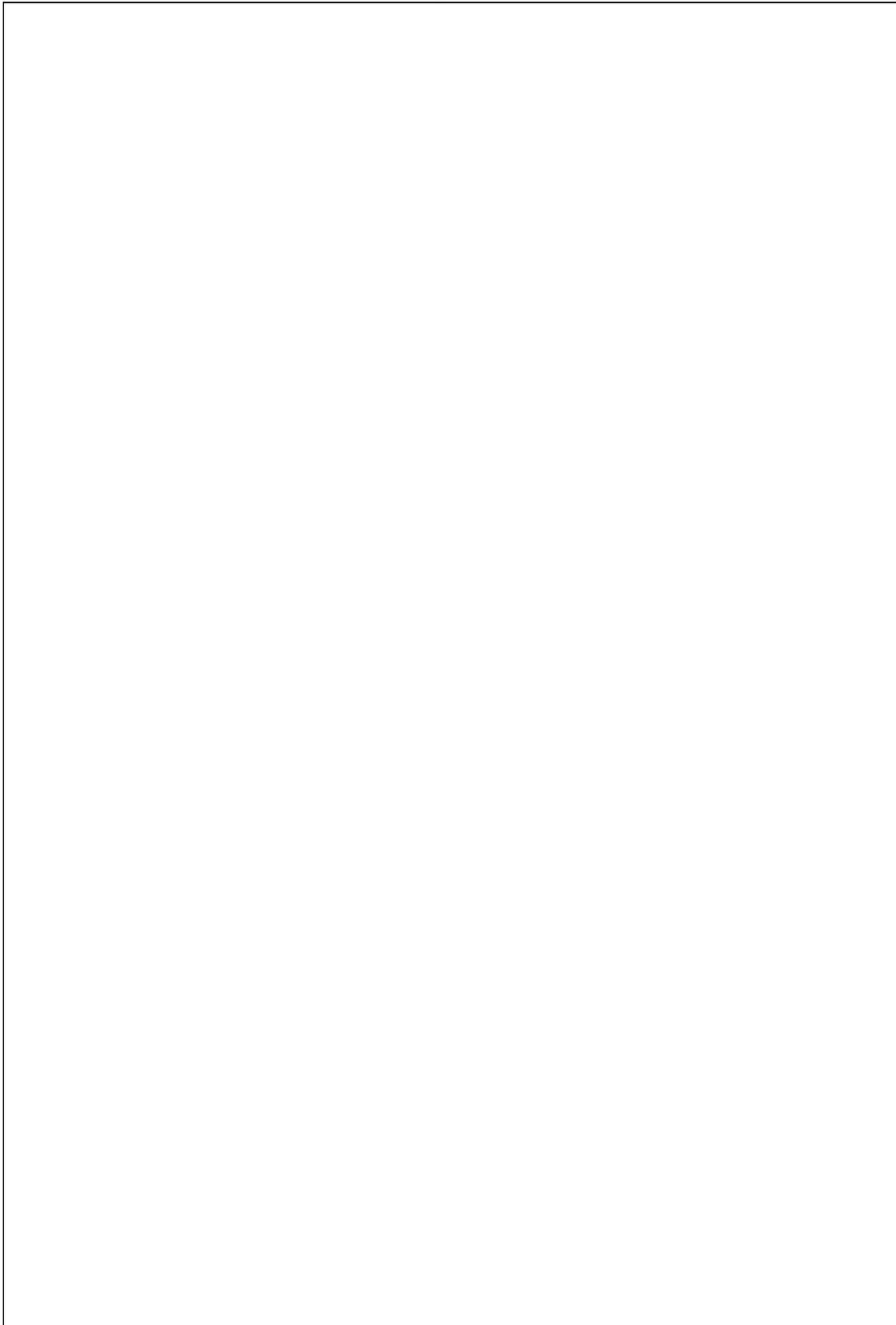
ショートステイどんたく 生活支援員 今井豊彦

毎年お盆になると実家がある岐阜県の飛騨へ帰省し束の間ですが、心身共にリフレッシュさせて頂いております。今年も「はとやのどんちゃん」で一杯かな!?なんて思いながら家族と一緒に実家に向かいました。車中、マジマジョ（子供番組）のCDがずっと流れていて、子供が寝たみたいだったのでラジオをつけると高校野球のサイレンが「ウ～」と鳴り、すると子供が「ウ～」と言って起きそうになりましたが、また寝て大丈夫。ただ山が高くなるにつれて入りが悪くなり、チューナー合わせるのも面倒だったのでラジオを切り、今度は奥さんが好きなCDを要求。歌っている。やれやれと思いながら車を走らせ、ふとある日の夏を思い出しました。

自分の親父は、流量測定員というダム管理会社の委託を受けて、岐阜県や長野県、愛知県にある、それぞれ指定の測水所（現場）に定期的に行き、川の流れや水位を測る仕事をしていた。現在は兄が引き継いでいる。この仕事には記録員も必要で、夏休みになると大方この役を自分が引き受けていた。当日朝が早く、夏休みなのにと思いきや嫌な気持ちではあったが、まだ少年なので運転はすべて親父。自分は助手席でシートをぐっと下げて最初の現場美並村まで寝ていくのがパターンだが、常にラジオをつけている為、音がうるさくてあまり眠れない事もある。この頃はあまり親父との会話は少ない。ただ、高校野球が流れると違った。大事な場面になると親父が「ここは普通にバントな」と言うと「点差から考えるとエンドランやな」と自分が返す。この後の展開でさらに盛り上がる。そうしていると現場に到着するが、大事な場面はラジオが優先。車から降りない。親父も。この仕事はきっちりとした時間に縛られることもなく、夏は暑さや増水時の危険を伴い慎重さを要する。無事測定を終え次は板取村へ。再び高校野球が流れる。トンネルや洞門に入り音が途切れても場面をイメージ。トンネルの向こうに現実が……。すると今度は親父が眠くなり勝手に車を停め仮眠をとるが、それでもよし。川で若い者が楽しそうに遊んでいても羨ましくない。そして洞戸村でいつもの食堂に入るとしっかりテレビで高校野球をやっている。大好きな唐揚げ定食を食べながらラジオでの想像とテレビでの実際とのギャップを感じていると、総合から教育に切り替わる所、リモコンのそばにいる客にみんなが注目する。勿論すぐに変えた。うん。この仕事は現場間の距離と時間を要するのと暗くなるとできなくなるので、大体3か所程しか現場を回れない。家に帰るとすでに辺りは真っ暗。こんなある日の夏休みが自分にはあった……。

そんなちょっとした事だがこれからも忘れないでいよう。また時間があればドライブがてら行ってみよう。と、思いつつ実家に着いた。そして、「はとやのどんちゃん」とビールが待っていた。相変わらず定番が好きな家族だと思いながら楽しい晚餐をすごした。

次は、ニコニコ鶴里の田中美知代さんにつなぎます。



低料第三種郵便物承認

平成 年 月 日発行（増刊）

A J Uニコニコハウス通信（第 306 号）（ 5 ）